

校内研究計画

甲州市立玉宮小学校

1. 学校課題

本校の子どもたちは明るく素直で、個性を發揮しながら元気に学校生活を送っている。本年度は新入児童がなく、6年生を除く各学年が10人に満たない全校児童30名の小規模校であるため、学年の枠をこえての交流が多く、学校生活全般を通じて、上級生が下級生の面倒をよく見ている。

しかし、全国的な傾向と同様に、遊びや家庭生活の変化から自然体験・社会体験など子どもの学びを支える直接体験が不足しがちになっていて、本校においても様々な課題がある。

- 児童数が年々減少している上、それぞれの家庭の予定もあり、友達や地域の人々との交流やふれあいの機会も減少しており、社会性の低下が懸念される。
- 指示された課題に真面目に一生懸命取り組む。しかし、課題意識を持ち、自ら解決していこうとする問題解決力や、進んで表現しようとする主体的な態度は十分であるとはいえない。
- きめ細かな指導が行えるが、互いに学びあうことやコミュニケーション能力が弱い。クラスの中の位置も固定されてしまい、基礎学力の定着と発展的な力を高めていくことが難しい実態もある。
- 多様な個性とのふれあいによる種々の能力へのあこがれや高め合いが希薄である。一方で他人の視線を気にしすぎる傾向にある。といった課題が挙げられる。

2. 研究主題

「確かな学力」を育てる学習活動の工夫

— 少人数学級に応じた算数科の授業づくり —

3. 主題設定の理由

学校課題で述べたように、本校児童は少人数で学ぶため、大規模校に比べきめ細かな指導が行き渡りやすい反面、互いに学びあうことが弱い傾向にある。そこで、学習場面に思考したり表現したりする場面をいかに仕組み、考えをどのようにして引き出していくか、そのためにはどのような学習形態がよいのか等、「授業が命」という視点に立って見直していくが必要になる。

算数科においては既習の内容を活用するとともに、次の学年の素地となることを見通した系統的な指導を行い理解を深めていく必要がある。そのためには基礎となる計算力や基本となる考え方など、学年の内容を身につけるために授業の中にどのような工夫を取り入れることができるか研究を進めていきたい。

4. 研究の内容と方法

(1) 児童の実態の把握

- CRT・NRTの結果や「Q-U」などを活用して各学級の児童の実態把握をし学級集団づくり、学習指導、研究に生かすために課題や手だてについて検討する。

- (2) 理論研究
 ○全体研究で、研究の基本方針の検討決定を行う。
 ○「玉宮小学習の約束」や家庭学習のめやすなど、学習基盤の検討を行う。
 ○講師を招いての理論研究を行う。
- (3) 研究授業
 ○授業研究・・・各自実践事例を積み重ね授業作りの工夫をし、その中で一人一実践を基本とし授業を通して学びあう。
- (4) 学習規律・習慣の確立
 ○「玉宮学びの約束」など全校で学習の約束を確認し、意識して取り組む。
 ○家庭学習・自主学習について学年の実態に応じた取組を行い、学期ごとに検討を行う。
 ○朝学習の取組についての研究

年間校内研修計画

			研究主任	田邊 珠紀	
月	日	曜日	内 容	担当	T C 要請
4	10	水	今年度研究の方向性の確認 学校課題・研究主題・主題設定の理由・研究仮説・ 内容と方法・組織・計画等の検討，研究組織編成 研究内容・方法・年間計画の決定	田邊 推進委員	
	17	水			
	24	木			
5	1	水	玉宮小学習の約束・家庭学習についての確認 継続的な取り組み・つきたい力について 実態調査について（案）～5月実施～ 学習会「Q-U」について	田邊 推進委員	
	22	水			
	29	水			
6	12	水	講師を招いての学習会 「確かな学力・算数科の授業づくり」 「Q-U」の調査結果をもとに今後の取り組みに ついて検討確認	田邊	○
	26	水			
7	3	水	授業実践① NRT・知能検査・「Q-U」I等の結果から各学 年の実態・課題の把握	(各学年)	
	10	水			
8	14	水	教育課程環流報告 NRT・知能検査・「Q-U」等の結果を生かし、 各学年の改造計画・家庭学習の取り組みについて	各参加者 (各学年)	
	21	水			
9	4	水	実践に向けて 授業実践② 授業実践③	個人 (各学年)	
	11	水			
	18	水			
10	9	水	授業案作成 授業案検討（全） 授業実践・研究会I 授業実践④	個人 授業者 授業者 (各学年)	○
	16	水			
	23	水			
11	30	水	授業実践⑤	(各学年)	
12	4	水	各学年の取り組み・課題の見直し 研究・実践のまとめに向けて 「Q-U」IIの結果をふまえて	(各学年) (各学年)	
	11	水			
1	29	水	実態調査結果 まとめ（成果・課題） 研究集録について 実態調査結果考察 来年度に向けて	(各学年) 田邊	
2	26	水	研究のまとめ ～ 研究集録用原稿作成	田邊 各担当	
3	5	水	研究集録作成作業	田邊 全職員	